令和９年４月入学

広島大学大学院教育人文社会科学研究科【博士課程後期】

学生募集要項

人文社会科学専攻　　人文学プログラム

〔一般選抜〕〔社会人特別選抜Ⅰ〕

令和８年10月

広島大学

目　　次

アドミッション・ポリシー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

広島大学志願者への入学検定料の免除措置について　・・・・・・・・・・・・　2

１．募集人員及び試験場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

２．出願資格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

３．出願手続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

４．入学者選抜方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

５．合格者発表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

６．入学手続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

７．現職教員等の社会人で教育方法の特例の適用を希望する場合・・・・・　9

８．長期履修制度について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

９．出願に伴う個人情報について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

10．学生宿舎について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10

11．その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10

出願・照会先・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10

令和９年度広島大学大学院教育人文社会科学研究科学生募集に伴う
試験成績（個人情報）の開示について・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11

人文社会科学専攻　人文学プログラム　指導教員一覧・・・・・・・・・・・　12

※ 本募集要項に記載された日時は，全て日本時間です。

◆アドミッション・ポリシー

教育人文社会科学研究科では，以下のような志や意欲をもち，それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を求める。

① 幅広い教養，人文科学，社会科学や教育科学及び関連する学問領域における卓越した知識と研究能力とともに，多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付けて，多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人
② 幅広い教養，人文科学，社会科学や教育科学及び関連する学問領域における卓越した知識と研究能力とともに，多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付けて，現在の人類社会が抱える課題，あるいは今後抱えるかもしれない課題にチャレンジすることにより，多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人

教育人文社会科学研究科は，これらの人を受け入れるため，そのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ，面接試験，学力試験，外部試験等を用いた多面的・総合的な評価による入学者選抜を実施する。

＜人文社会科学専攻＞

人文社会科学専攻では，以下のような志や意欲をもち，それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を求める。

① 幅広い教養，人文科学や社会科学及び関連する学問領域における卓越した知識と研究能力とともに，多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付けて，多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人
② 幅広い教養，人文科学や社会科学及び関連する学問領域における卓越した知識と研究能力とともに，多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付けて，現在の人類社会が抱える課題，あるいは今後抱えるかもしれない課題にチャレンジすることにより，多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人

人文社会科学専攻は，これらの人を受け入れるため，そのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ，面接試験，学力試験，外部試験等を用いた多面的・総合的な評価による入学者選抜を実施する。

<人文学プログラム>

人文学プログラムでは，以下のような志や意欲をもち，それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を求める。

① 論理的思考力，創造力，語学力など，人文学を学ぶために必要な高度な専門性を身に付けている人
② 柔軟で批判的な精神を持ち，主体的に卓越した専門性の学習や先端的な研究を行う意欲のある人
③ 原典・資史料に基づいて，人間，文化，歴史，環境について幅広く深く考察したい人
④ 卓越した専門性を活かして世界に羽ばたきたいという意欲を持つ人

人文学プログラムは，これらの人を受け入れるため，そのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ，面接試験，学力試験，外部試験等を用いた多面的・総合的な評価による入学者選抜を実施する。

広島大学志願者への入学検定料の免除措置について

広島大学では，被災者の経済的負担を軽減し，志願者の進学機会の確保を図るため，令和8(2026)年度に実施する本学の令和9(2027)年度入学者選抜において，入学検定料の免除措置を実施することとしましたので，お知らせします。

入学検定料の免除を希望される方は，出願前に必ず以下の「8　問い合わせ先」までご連絡ください。

1　免除措置の対象となる入学者選抜

令和8(2026)年度に実施する本学の学部，大学院及び専攻科入試（再入学，転学及び編入学に係る選考を含みます。）

2　措置内容

入学検定料の免除

※ 入学試験成績の開示に係る手数料も，免除の対象となります。

3　免除の対象となる災害

令和元年8月28日以降に災害救助法の適用を受けた災害

※ 入学検定料の免除の対象となる入学者選抜は，当該災害の災害救助法適用日以降，当該適用日から起算して5年を経過する日までの間に出願期間の最終日が設定されているものに限ります。

4　免除の対象者

「3 免除の対象となる災害」において災害救助法が適用されている地域(注)で被災した志願者で，次のいずれかに該当する方

(1) 主たる学資負担者が居住する自宅家屋が全壊，大規模半壊又は半壊した場合

(2) 主たる学資負担者が死亡又は行方不明の場合

(注) 災害救助法適用地域等は，次の内閣府ホームページでご確認いただけます。

http://www.bousai.go.jp/taisaku/kyuujo/kyuujo_tekiyou.html

5　申請方法

事前に「8 問い合わせ先」に連絡した後，所定の申請書類を出願書類とともに提出してください。

なお，この場合は，出願時に「入学検定料」を払い込まないでください。

6　申請書類

(1) 検定料免除申請書（本学ホームページからダウンロード）

https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyushi/news/1058

(2) り災証明書（写し可）　（上記4の(1)に該当する方）

(3) 死亡又は行方不明を証明する書類（写し可）　（上記4の(2)に該当する方）

7　インターネット出願における入学検定料免除特例措置の手続方法

本学ホームページ掲載のPDFファイルを参照してください。

https://www.hiroshima-u.ac.jp/system/files/186130/menjo_r4_ver2.pdf

8　問い合わせ先

人文社会科学系支援室（文学事務室）

〒739-8522　東広島市鏡山一丁目2番3号

TEL : (082)424-6615

令和９年４月本学大学院教育人文社会科学研究科（博士課程後期）に入学させる学生を次のとおり募集します。
※感染症等の影響により試験期日や選抜方法が変更される可能性があります。変更内容については本学ホームページ等で公表します。

１．募集人員及び試験場

専攻 プログラム	選抜区分/ 募集人員	教育研究領域等	試験場 出願・照会先
人文社会 科学専攻 人文学 プログラム	一般選抜 若干名 社会人特別選抜Ⅰ 若干名	比較日本文化学 / 思想文化学 / 歴史文化学 / 日本・中国文学語学 / 欧米文学語学・言語学 / 地表圏システム学	(試験場) 広島大学文学部 (出願・照会先) 人文社会科学系支援室（文学事務室） 〒739-8522 東広島市鏡山一丁目２番３号 (082)424-6615 bun-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp

◇人文社会科学専攻入学定員 82 名
各プログラム目安定員：
人文学プログラム 26 名，心理学プログラム８名，法学・政治学プログラム４名，
経済学・経営学プログラム 13 名，ソーシャルデータサイエンスプログラム２名，
国際平和共生プログラム６名，政策科学プログラム３名，人間総合科学プログラム 14 名

２．出願資格

〈一般選抜〉
次の各号のいずれかの資格を有する者又は令和9年3月31日までに取得見込みの者
(1) 修士の学位又は専門職学位を有する者
(2) 外国において，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
(3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
(4) 我が国において，外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
(5) 国際連合大学の課程を修了し，修士の学位に相当する学位を授与された者
(6) 外国の学校，第４号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し，大学院設置基準第 16 条の２に規定する試験及び審査に相当するものに合格し，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
※第４号・・・外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設
(7) 文部科学大臣の指定した者
(8) 本学大学院において，個別の入学資格審査により，修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で，令和９年３月 31 日までに 24 歳に達したもの

注意事項１．上記の資格(8)により出願しようとする者は，事前に人文社会科学系支援室（文学事務室）に相談の上，令和８年 12 月４日(金) までに必要書類を提出してください。

〈社会人特別選抜Ⅰ〉
社会人特別選抜Ⅰに出願できる者は，日本国籍を有する者で，下記による大学院博士課程前期修了等の資格を得た後，入学時において２年以上の職歴もしくはその他の社会的経験を有する者
(1) 修士の学位又は専門職学位を有する者
(2) 外国において，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
(3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

⑷　我が国において，外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
⑸　国際連合大学の課程を修了し，修士の学位に相当する学位を授与された者
⑹　外国の学校，第４号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し，大学院設置基準第16条の２に規定する試験及び審査に相当するものに合格し，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
　※第４号・・・外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設
⑺　文部科学大臣の指定した者
⑻　本学大学院において，個別の入学資格審査により，修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で，令和９年３月31日までに24歳に達したもの

注意事項１．上記の資格⑻により出願しようとする者は，事前に人文社会科学系支援室（文学事務室）に相談の上，令和８年12月４日(金) までに必要書類を提出してください。
注意事項２．大学院設置基準第14条の特例を希望する場合は，令和８年12月４日(金) までに人文社会科学系支援室（文学事務室）にその旨申し出てください。

３．出願手続

⑴　出願期間

事　　項	期　　間
インターネット入力及び 入学検定料の支払	令和９年１月５日(火) ～ 令和９年１月13日(水)　16：59まで
別途郵送が必要な 出願書類の提出	【郵送する場合】 令和９年１月５日(火) ～ 令和９年１月13日(水)　17：00まで（必着）
	【持参する場合】 令和９年１月５日(火) ～ 令和９年１月13日(水)　17：00まで （受付時間：8：30 ～ 17：00） （ただし，土・日・祝日を除く。）

⑵　入学検定料　30,000円

インターネット出願システムにより納入してください。
ただし，p.２の免除措置対象者，国費外国人留学生及び<u>本学大学院博士課程前期を令和９年３月末に修了見込みの者は不要</u>です。

⑶　出願手続

出願期間内に，次の７つのステップを完了してください。

Step 1: インターネット出願システムにアクセスする

アクセスページ

広島大学入試情報
https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyushi

◆**インターネット出願**システム・**UCARO** に関するお問い合わせ先

ヘルプデスク（日本語対応のみ）
受付時間：10:00 **から** 18:00 **まで**
（土日祝日，12 月 30 日～1 月 3 日を除く）
電話番号： 03-6634-6494
※日本国外及び IP 電話からもご利用いただけます。

◆入試に関する不明点等は，人文社会科学系支援室（文学事務室）に問合せてください。
受付時間　8:30 から 17:15 まで（土日祝日及び年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）を除く）

Step 2: UCARO ログイン画面から「UCARO 会員登録」を選択

出願には「UCARO」への会員登録（無料）が必須です。

UCARO については，以下の URL を参照してください。
https://www.ucaro.net/

Step 3: インターネット出願システムに志望情報等を入力

画面上の指示に従って，入試区分，第四階層（専門分野），教育方法の特例適用希望の有無，入学検定料免除の有無，氏名，住所，電話番号，メールアドレス等を入力してください。
p.2 の免除措置対象者，国費外国人留学生及び本学大学院博士課程前期を令和 9 年 3 月に修了見込みの者は，事前に人文社会科学系支援室（文学事務室）にアカウントの発行を依頼し，入学検定料免除の有無で，「有り」を選択し，アカウントを入力してください。
外国人の方は，パスポートの氏名表記に基づき，姓，名の順番に記入してください。
必ず希望する指導教員を入力してください。未入力の場合は，学歴・職歴の指導教員名を本学が転記します。

※入力いただいた個人情報は，入学試験の実施及び選考，合格の通知及び発送，入学手続書類の送付，入学前後の案内の送付，入試統計データの作成，学生証の作成，学籍データの作成，入学検定料の収納等で利用しますので，正確な情報を入力してください。

Step 4: 写真をアップロード

デジタル写真（ファイル形式等：JPEG）を画面の案内に従ってアップロードしてください。
郵送での提出はできません。

※出願時にアップロードされた写真は，受験時の本人確認のため使用するほか，入学後の学生証及び本学の教務システムでも卒業（修了）まで使用します。
このため，入学後にも使用可能な写真のアップロードを推奨します。
なお，写真アップロード後の差し替えはできません。
入学後に学生証の内容(写真や姓名の漢字表記)を変更する場合は，1,000 円の手数料が必要です。

Step 5: 入学検定料（30,000 円）の支払い

「決算情報を入力」の画面で，次の中から支払方法を選択してください。

1. クレジットカード：VISA, MasterCard, JCB, AMERICAN EXPRESS, Diners Club
2. コンビニエンスストア：セブンイレブン，ローソン，ミニストップ，ファミリーマート，デイリーヤマザキ，セイコーマート
3. 金融機関 ATM 【Pay-easy】
4. ネットバンキング

(注)
◆ 入学検定料の他に，１回の出願ごとに必要なインターネット出願システム手数料は，志願者負担となります（インターネット出願システム手数料の金額は出願時に表示されます。）。
◆ 日本国外からの出願の場合は，クレジットカード以外の決済方法は利用できません。ただし，海外在住の志願者がインターネット出願を行った後，決済に必要な情報を日本国内在住者に連絡して，入金する等の方法は可能です。
◆ 出願受付後はいかなる理由があっても，既納の入学検定料は返還しません。
ただし，次の（1），(2）の場合は，既納の入学検定料から振込手数料を差し引いて返還します。本学から検定料返還のための「返還請求書」を郵送しますので，「出願番号」，「ふりがな」，「氏名」，「電話番号」，「住所」，「振込先」及び「返還請求の理由」等を記入・押印の上，令和 9 年 2 月 26 日(金)までに（4）の送付先に郵送してください。ただし，いずれの場合もインターネット出願の手数料は返還対象外です。
(1) 出願書類を提出しなかった，又は受付されなかった場合
(2) 検定料を誤って二重に振り込んだ場合

Step 6: 出願情報の登録完了

出願番号（6 桁）が表示されるので，メモしておいてください。

Step 7: 出願書類の郵送又は持参

以下のいずれかの方法により，人文社会科学系支援室（文学事務室）へ提出してください。

1. 郵送による提出

【日本国内から出願の場合】

市販の角形 2 号封筒（横 24cm×縦 33.2cm で A4 サイズの書類を折らずに入れることができる封筒）を用意し，「広島大学大学院教育人文社会科学研究科 出願書類在中」と封筒の表（宛名）面に明記し，すべての必要書類を封入し，郵送に必要な切手を貼付の上，出願期間内に到着するよう，簡易書留郵便で，郵送してください。

【日本国外から出願の場合】

郵送される前に，出願書類一式のデータ（PDF ファイル等）を E-mail の添付ファイルなどで送信してください。支援室で確認後，A4 サイズの書類が入る封筒（横 24cm×縦 33.2cm 程度）にすべての必要書類を封入のうえ，EMS（Express Mail Service）DHL，FedEx 等の最速の国際郵便で郵送してください。

2. 持参による提出

市販の角形 2 号封筒（横 24cm×縦 33.2cm で A4 サイズの書類を折らずに入れることができる封筒）を用意し，すべての必要書類を封入の上，提出してください。この場合，切手は不要です。

(4) 出願書類受付場所及び連絡先

人文社会科学系支援室（文学事務室）
〒739-8524　東広島市鏡山一丁目 2 番 3 号
TEL: (082)424-6615 / 6616
E-mail: bun-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp

1-2-3 Kagamiyama, Higashi-Hiroshima City
739-8522, JAPAN (Graduate School)
Support Office for the fields of Humanities and Social Sciences Hiroshima University

(5) 郵送が必要な出願書類等

	出願書類等	摘　　要
A	学　歴　・　履　歴	所定の様式（※）を使用してください。 記載すべき内容がない場合でも，「学歴・職歴：該当なし」と記入のうえ，提出してください。 志願者情報欄には，出願する専門分野・希望する指導教員名を記入してください。
B	学 業 成 績 証 明 書	出身大学（研究科）長が作成したもの。（出願資格となる大学等の証明書
C	修士課程修了（見込）証明書	出身大学（研究科）長が作成したもの。（出願資格が確認できる証明書） （既卒の方は，学位情報が記載されていることを確認してください。） ただし，中国（台湾，香港，マカオを除く）の大学院を修了した者 または 修了見込みの者 は，以下の書類をご提出ください。 【修了した者】 ・学歴証書電子登録票（教育部学历证书电子注册备案表） ・修了証書（毕业证书）の写し ・学位証書（学位证书）の写し 【修了見込みの者】 ・オンライン在籍認証レポート（教育部学籍在线验证报告） ・修了見込証明書 ※　学歴証書電子登録票及びオンライン在籍認証レポートは，中国教育部認証システム（中国高等教育学历证书查询 http://www.chsi.com.cn/xlcx/bgys.jsp）より取得し，提出時点で Web 認証の有効期限が 6 か月以上残っていることを確認してください。

D	修士論文等	以下の①～③の書類（様式自由）を提出してください。 ① 修士論文（写し）又はそれに準じるもの（写し） ② ①の内容を2,000字～4,000字程度でまとめた要約（原則として日本語） ③ 修士の学位取得後の研究業績 ※ ③の研究業績は，写し又は原物がある場合に提出してください。入学試験終了後返却します。
E	研究計画書	所定の様式（※）を使用し，入学後の研究計画について3,000字程度で記述してください。
F	自己推薦書	一般選抜 で出願する本学出身者のうち，希望者は，上記D，Eの書類を「自己推薦書」に代えることができます。ただし，その場合事前に希望する指導教員に相談してください。 所定の様式（※）を使用し，本学大学院に入学を志望する動機を1,200字程度で記述してください。 本学出身者とは，以下のとおりです。 ・研究科又はプログラムの指定はありません。 ・修了見込み又は既卒の区別はありません。 ・研究生及び外国人研究生は，出願時に本学在籍中の者に限ります。 ・科目等履修生は，在籍中であっても該当しません。
G	教育・研究業績等調書	社会人特別選抜Ⅰで出願する者は，所定の様式（※）を使用し，提出してください。 ※ 教育・研究業績等調書で提出された活動内容を示せる印刷物や製作物については，入学試験終了後返却します。
H	氏名に関する証明書	改姓等により出願時の氏名と証明書類の氏名が異なる場合には，新旧両方の氏名が確認できる公的機関が発行した書類（住民票の写しなど）を提出してください。
I	在留カードの写し（両面）	日本国内に在住する外国人のみ提出してください。
J	パスポートの写し（氏名と顔写真のページ）	日本国外に在住する外国人のみ提出してください。
K	国費留学生の証明書，延長申請予定の旨を記載した任意の書類	国費留学生のうち，出願時に本学に在籍していない者は提出してください。

【注意事項】

- （※）印の様式は，広島大学人間社会科学研究科のホームページからダウンロードできます。
- 上記の出願書類等は一括して提出してください。
- 出願書類受理後の記載内容の変更は認めません。
- 出願書類受理後は，提出書類等は返還しません。（修士の学位取得後の研究業績を除く）
- 出願書類に不備がある場合は，受理しないことがあります。
- 出願書類のうち，日本語又は英語以外によるものには，日本語又は英語の訳を付してください。
- 合格後あるいは入学後，提出書類に虚偽の記載や詐称があることが判明した場合，合格・入学を取り消します。
- 修了見込みで出願して合格した者が，入学前日までに修了できなかった場合，入学資格がないものとみなされます。

(6) 受験上及び修学上の配慮を必要とする者の事前相談

障害のある者等，受験上及び修学上の配慮を必要とする者は，次の事項を記載した申請書（様式は定めません。）を出願書類受付場所（「3. 出願手続」(4)参照）に提出し，相談してください。

ア 相談の時期　　**令和８年12月４日(金) まで**

イ 申請書の記載内容

① 志願者の氏名，住所
② 連絡先電話番号（携帯電話がある場合は，携帯電話番号も併記してください。）
③ 出願予定のプログラム・専門分野
④ 出身大学大学院名
⑤ 志望する指導教員名
⑥ 障害等の種類・程度（障害者手帳のコピーまたは医師の診断書を添付してください。）.
⑦ 受験上の配慮を希望する事項
⑧ 修学上の配慮を希望する事項
⑨ 出身大学等でとられていた配慮
⑩ 日常生活の状況

(7) 受験番号の閲覧及び受験票等の印刷について

本学において出願書類を受領した場合は，令和９年１月 20 日(水) 12：00（予定）から UCARO により受験番号，受験票及び受験案内が閲覧可能となります。試験実施日までに UCARO から受験票を印刷しておいてください。

4. 入学者選抜方法

〈一般選抜〉

学力検査（口述試験），研究業績（修士論文等）及び出願書類（学業成績，研究計画書）を総合して選考します。
ただし，自己推薦書提出者は，学力検査（口述試験），出願書類（学業成績，自己推薦書）を総合して選考します。

〈社会人特別選抜Ⅰ〉

学力検査（口述試験），研究業績（修士論文等）及び出願書類（学業成績，研究計画書）を総合して選考します。

年　月　日（曜）	時　間	試　験
令和９年２月 13 日(土)	13：00　～	口述試験

5. 合格者発表

令和９年２月 26 日(金) 12：00 の予定

合格者に合格通知書を送付します。また，UCARO に合否の結果を掲載します。電話等による照会には応じられません。
なお，UCARO への合否結果の掲載は，本研究科の情報提供の一環として行うものであり，公式の合格者発表は，合格通知書等の郵送（日本国内在住者に限る。）となります。

6. 入学手続

(1) 入学手続期間

令和９年３月１日(月) ～ 令和９年３月８日(月) 17：00 まで（必着）

(2) 納付金

入学料　　282,000 円
授業料　前期分　267,900 円
　　（年額　535,800 円）

【注１】 既納の入学料は，いかなる理由があっても返還しません。
【注２】 上記記載の金額は令和８年４月現在のものです。入学時及び在学中に納付金の改定が行われた場合には，改定後の納付金を納入することになります。
【注３】 納付金の額及び具体的な納付方法等の詳細については，別途お知らせします。

(3) 提出書類

大学院入学届，学生情報の登録，修了証明書及び学業成績証明書（修了見込みで出願した者），公務員その他民間会社等に在職のまま入学する者は所属長の承諾書などです。合格者には別途案内します。

(4) こども性暴力防止法に関する留意事項及び同意について

「こども性暴力防止法（学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律）」により，教員免許の資格取得に必要な教育実習・介護等体験，インターンシップ，ボランティア活動等に参加する学生は，性犯罪前科の有無の確認が求められる場合があります。

本学では，上記制度の趣旨に鑑み，入学に際し，関連事項についてあらかじめ同意を得ることとしています。留意事項及び同意に関する詳細については，次のホームページを参照してください。

https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/koseibouhou.html

7. 現職教員等の社会人で教育方法の特例の適用を希望する場合

本研究科では，社会人としての職務の遂行と本研究科での履修が両立するよう，大学院設置基準第 14 条の特例（大学院の課程においては，教育上特別の必要があると認められる場合には，夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。）を適用し，就学上の便宜を図ります。

なお，特例措置による履修方法は，受入予定指導教員の指導を受けてください。

また，特例措置により履修を希望する場合は，インターネット出願の志望情報入力（p. 5・Step 3）の際に，教育方法の特例適用希望の有無で「有」を選択してください。

8. 長期履修制度について

以下の者を対象として，標準の修業年限を超えて一定の期間にわたり，計画的に教育課程を履修して課程を修了することができる制度があります。申請は入学後となります。

（1）職業を有し，かつ，就業している者（アルバイトとして就業する者を含む。）で，学修時間の確保が著しく困難であるもの

（2）家庭において家事，育児及び介護を行う者で，学修時間の確保が著しく困難であるもの

（3）身体障害，知的障害，精神障害(発達障害を含む。)その他の心身の機能の障害がある者で，学修時間の確保が著しく困難であるもの

（4）本学フェニックス入学制度により入学した者

この制度による授業料は，標準の修業年限分の授業料総額を計画的に履修することを認められた一定の期間の年数で分割して納めることとなります。

なお，長期履修期間の年限等この制度の詳細については，人文社会科学系支援室（文学事務室）に照会してください。

ただし，在留資格が留学の場合は対象外です。

9. 出願に伴う個人情報について

出願書類等に記載された個人情報（氏名，生年月日，性別，その他の個人情報等）は，入学者選抜及び合格通知並びに入学手続を行うために利用します。

合格者の入学後は，学生支援関係（奨学金申請，授業料免除申請等）業務及び調査・研究（入試の改善や志願動向の調査・分析等）を行う目的をもって本学が管理します。他の目的での利用及び本学の関係教職員以外への提供は行いません。

なお，個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結した上で，コンピュータ処理をするため，関連業務を外部の事業者に委託することがあります。

10. 学生宿舎について

学生宿舎の入居者募集については，入居願の提出期限が令和９年２月上旬を予定していますのでご注意ください。
詳細については，学生宿舎ホームページをご覧ください。

ホームページアドレス： https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/shien/jyuukyo
問 い 合 わ せ 先 ： 広島大学教育室教育部学生生活支援グループ
電話：（082）424－5794
E-mail： gkeizai-group@office.hiroshima-u.ac.jp

11. そ の 他

広島大学は，令和２年１月からキャンパス内全面禁煙となりました。

出願・照会先

人文社会科学系支援室（文学事務室）
〒739-8522 東広島市鏡山一丁目２番３号
電 話： （082）424－6615 / 6616
E-mail： bun-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp

(1) 電話番号については，市外局番が同じ地域がありますが，東広島市以外の地域については，市外局番からダイヤルしていただく必要がありますのでご注意ください。
(2) 気象等の影響で試験日時を変更する場合は，人間社会科学研究科ホームページで発表します。
ホームページアドレス https://www.hiroshima-u.ac.jp/gshs

令和９年度広島大学大学院教育人文社会科学研究科学生募集に伴う
試験成績（個人情報）の開示について

１．下表に示す，個人に関する入試情報（以下「個人情報」という。）は，令和９年度広島大学大学院教育人文社会科学研究科学生募集に伴う本学の一般選抜又は特別選抜を受験した者（以下「開示申請者」という。）に限り開示します。

項　　目	開　　示　　内　　容
試　験　成　績	人文社会科学専攻　人文学プログラム 博士課程後期　一般選抜 又は 社会人特別選抜Ⅰ 学力検査の得点　出願書類の評価（段階区分評価）

２．試験成績（個人情報）の開示に関する手続の流れは次のとおりです。

(1) 入試情報開示申請書を次のいずれかの方法で入手してください。

① 窓口で請求してください。

② 返信用封筒（本人の住所・氏名を明記し，定型郵便物 50ｇまでの普通郵便分の切手を貼った定形封筒（長形３号（12㎝×23.5㎝））を同封し，「広島大学大学院教育人文社会科学研究科 入試情報開示申請書請求」と明記の上，人文社会科学系支援室（文学事務室）に請求してください。

(2) 入試情報開示申請書に必要事項を記入した後，以下の書類を同封の上，４月 15 日から５月 31 日までの間に直接又は郵送で人文社会科学系支援室（文学事務室）に申請してください。

① 必要事項をすべて記入した「広島大学大学院教育人文社会科学研究科 入試情報開示申請書」

② 広島大学受験票（UCARO から印刷したもの。開示の際，同封して返却します。）

③ 返信用封筒（長形３号（12㎝×23.5㎝）に受験者本人の郵便番号，住所，氏名を明記し，定型郵便物 50ｇまでの簡易書留分の切手を貼ったもの。）

なお，開示申請者が提出した申請書等に不備があるときは，修正を求めることがあります。

(3) 教育人文社会科学研究科では，入試情報開示申請書を受理した日から 30 日以内に，開示決定通知書を開示申請者本人へ送付します。（返信用封筒使用）

試験成績（個人情報）の開示に関する申請・問い合わせ先

人文社会科学系支援室（文学事務室）
〒739-8522　東広島市鏡山一丁目２番３号
電話：(082) 424－6615
Mail：bun-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp

人文社会科学専攻　人文学プログラム　指導教員一覧

(注 1)下記教員一覧は，令和8年10月1日現在(令和9年3月退職等予定者を除く)のものです。
(注 2)※印が付してある教員については，標準修業年限内の退職等予定者であるため，当該教員を指導教員として志願する者は，必ず事前(検定料納入前)に，広島大学人文社会科学系支援室(文学事務室)に問い合わせてください。
※1:令和10年3月退職等予定者，　※2:令和11年3月退職等予定者

比較日本文化学		教授	中村　平	台湾でのフィールド経験を軸に，日本植民主義と台湾先住民の歴史経験や暴力的な記憶について研究してきた。近年はautoethnography の方法論にも関心をよせている。参加者とは日台関係論のテーマに限ることなく，より広い主題を国際日本学や人類学，歴史学，社会思想史，文化理論などの領域との関係性において再考し，研究と教育の重なりにおいて比較日本文化学や人文学を開く実践を行いたい。同時に知の権威化や制度化を考え直し，知の流通と教育・研究的な営み自体を議論の俎上にあげる。「学内」にとどまらないゼミナールの場を触発され合う知の共同体と考え，発話し聞き・書き表現することを洗練させる歓びと共に，それらのトレーニングを分かち合いたい。
		教授	本田　義央	比較日本文化学分野で，日本とアジアの文化の比較研究を行っている。研究の基礎は南アジアの古典文化にあるが，それがアジア諸地域に地域を超えて伝播しさまざまに受容されていく過程や受容ののちの変化に注目している。また，かならずしも南アジアに端を発することのみならず，諸地域の人の営みの諸相を文献資料に基礎をおきつつ，比較を通じて明らかにすることに関心をもっている。あたりまえのことにでもどれだけの関心をもちこだわることができるか，得心がいくまで調べ考えることを大切にしている。
		教授	溝渕　園子	日本をひとつのモチーフとして対象化し，比較の手法によってそれを相対化する場合，さまざまなレベルで，「異文化」とどう向き合うかという問題が浮上する。教育面では，主に近現代日本の文芸メディアを比較文学の観点から検討しながら，広く文化の動態をとらえることを重視した指導を行う。研究面では，19 世紀から 20 世紀にかけての日本とロシアの文学的関係に着目した比較文学を専門としている。受容論／影響論のほか，異文化表象や翻訳文学，「世界文学」の概念の変化，文学と美術のジャンル間交渉など，近現代の言語文化の「越境」をめぐる諸問題に着目した研究に取り組んでいる。
		准教授	太田　亨	鎌倉時代末期頃，中国より禅宗が伝来し，様々な文化がもたらされた。禅僧はこぞってそれらの文化を吸収し，膨大な量の漢籍を習翫した。この受容の諸相を解明するために，禅僧が漢籍を受容して自らが作品を詠じるまでの段階を三つに区分し，漢籍そのものの書誌的事項の調査，漢籍を読解・解釈した内容についての調査，禅僧が詠出した作品内容についての調査を行っている。具体的には，杜甫や柳宗元の作品集そのものの価値や，禅僧が杜詩や柳文を読解した様相，義堂周信を始めとする禅僧の作品から見える人間像等を明らかにしようと考究している。また，現代の漢文教育における教材に関して，その内容理解に関する問題や扱い方についても考究している。
		准教授	藤城　孝輔	沖縄をめぐる映像を中心に，日本，韓国，台湾，香港といった東アジアの現代映画についてこれまで論文を発表してきた。さらに，異文化間アダプテーションや，映画における記憶や歴史の表象といったテーマにも関心をよせている。近年では，村上春樹作品や現代沖縄文学の映画アダプテーションの研究にとりくんでいる。研究のかたわら，映像翻訳や国際映画祭のプログラミングにも，ときおり携わっている。教育面では，現代日本映画の映像テクスト分析を基礎におき，映像から見出される意味を社会や歴史のコンテクストのなかに位置づけて理解できるようになることをめざしたい。
		助教	劉　金鵬	戦後日本知識人の言論，特に「アジア」をめぐる諸言論について　研究を行っている。近代化論，ナショナリズム，アジア主義といった思想課題と格闘していた知識人の言論を考察し，比較的視野で近代以降における「アジア的」な思考回路を探求している。また，近代化以来，日中両国の間で共有されている思想課題に注目し，「科学」に対する批判と擁護を中心に，国の枠組みを超えて分析している。教育においては，戦後の総合雑誌を中心に当時の論壇を再現し，知識人の間で行われた議論を再検討している。さらに，同時代史の視座で，新しい日本文化のあり方を取り上げ，戦後における日本文化の変遷をたどっている。
思想文化学	哲学	准教授	硲　智樹	近代ドイツの哲学者ヘーゲルの思想をテキストに依拠した厳密な文献学的研究に基づいて解明及び解釈するという研究を行っている。主な研究内容として，その論理学・現象学・法哲学研究を中心に，体系構築に至るヘーゲルの思想形成過程，カント及びドイツ観念論におけるヘーゲル哲学の位置づけや相互的影響関係，さらには現代分析哲学との関連でヘーゲル的着想の現代的意義等々を明らかにすることなどを試みている。そのほか，自由・承認・正義などを鍵概念として現代の社会・政治哲学にも取り組んでおり，個人の自由を実現できる社会の在るべきかたちを模索している。大学院の授業は近代における古典的哲学文献の講読が中心である。そこでは丁寧で緻密な読解を心がけ，哲学文献を読むための基本的能力を養いながら，参加者同士での議論を通じ，各人が自らの思索を深めていくことを目指している。
		助教	天野　恵美理	19 世紀末から 20 世紀前半のフランスの哲学者アンリ・ベルクソンの思想を中心に研究を行っている。『物質と記憶』の記憶論を軸に、知覚・注意・意志などに関する心理学理論と、因果性概念の形成・展開を主な研究対象としている。また、未刊行の講義録も含めた資料の分析を通じて、刊行著作だけからは捉えにくいベルクソンの思想形成の過程を明らかにすることにも取り組んでいる。このほか、フロイト以前の無意識概念を中心とする 19 世紀後半から 20 世紀初頭のヨーロッパ心理学史や、ベルクソンの記憶論と現代の記憶研究との比較・接続にも取り組んでいる。授業では、哲学の原典を正確に読み解く力と、自ら問いを立てて論文としてまとめる力を養うことを目指している。

思想文化学	インド哲学・仏教学	教授	根本　裕史	インドで生まれた仏教思想やサンスクリット文化は，ヒマラヤ山脈を超えてチベットに伝わり，独自の発展を遂げている。授業ではインドからチベットまでを対象とし，文化史や思想史について総合的に議論すると共に，サンスクリット語やチベット語の原典の読解法について基礎から指導している。専門はチベット仏教思想であり，主にゲルク派の創始者ツォンカパの縁起思想，菩薩思想，仏身論の解明に取り組んでいる。また，近年ではチベットの美文詩や詩論にも関心を広げ，同地で仏教思想と文学の融合が成立した過程について考察している。最先端のチベット学の研究成果を授業にフィードバックし，学問することの喜びを大学院生達と共有することを目指している。
		准教授	大谷　由香	日本を中心とする東アジア漢文圏仏教について、特に戒律思想の変遷に着目して研究を行っている。インドでの生活を念頭においた生活規則を、後代の東アジアで正確に実践することは難しい。東アジアでは多くの戒律書の注釈書が作成されており、そこには開祖シャカムニ由来の宗教生活を異なる土地で実践するための工夫が表現されている。仏教が異文化と出会い変容していく様子を戒律の思想・実践両面から考究する。また日本国内での仏教研究実態を明らかにするため、地域寺院に蓄積された仏教典籍の調査整理・紹介を行っている。教育面では、仏教漢文資料の読解法について基礎から指導しており、また活字だけではなく写本のくずし字読解についても教授する。研究を離れた後にも、地域に根付く仏教文化をみつけ楽しめる技術を習得できる環境を用意したい。
	倫理学	准教授	後藤　雄太	(1)存在の意味・価値の喪失，「ニヒリズム」の問題を，主にニーチェとハイデガーの思想を手掛かりに研究している。また，東洋思想における空や無の哲学も視野に入れつつ考察を進めている。さらに，単に思想研究にとどまるのではなく，その現代的意義にも注意を払っている。 (2)生命倫理学的課題としては，終末期医療の在り方や死の受容の問題といった，現代における「死に関する問題」を研究する一方，人工妊娠中絶や優生思想といった「誕生に関する問題」にも取り組んでいる。 (3)情報倫理学的課題としては，現代社会を席巻するインターネットやスマートフォンなどの情報技術との然るべき＜距離＞の取り方について研究している。 (4)実際の教育においては，東西の伝統的な倫理思想の学習を重視する一方，現実世界に対する実践的な問題意識を持って思索するよう指導している。
		助教	岡本　慎平	19 世紀イギリスの哲学者 J.S.ミルを中心にしたイギリス経験論の道徳哲学に関する思想史的研究，価値論や規範理論に関する現代哲学の理論研究，およびロボット工学や宇宙開発に関するテクノロジーの倫理問題に関する研究をおこなっている。授業では学生の関心に合わせて，(1)古典的文献の訳読および解釈，(2)メタ倫理学・規範倫理学に関する有力論文の検討・考察や，論争状況の理解のためのサーヴェイ調査，(3)人工知能など現代の諸問題に関する最新の研究状況の把握のためのジャーナル論文の調査検討などをおこなっている。
	中国思想文化学	教授	末永　高康	戦国から秦漢期にかけての諸思想を主たる研究対象としている。この時期に記されたテキストが，近年，竹簡や帛書の形で大量に出土してきており，伝世の資料によってのみ組み立てられてきた旧来の思想史の見直しが求められる状況となっている。そこで，これら新資料がもたらす知見を用いながら，伝世資料の読み直しや再評価を行い，当該期の思想史を新たに構成すべく研究を進めているところである。現在は特に，『礼記』『大戴礼記』に収められた諸篇の資料的価値を再検討しながら，戦国儒家思想史の再構成を行っている。教育面では，諸注釈を用いて先秦諸子のテキストを読み解いていく技法を教授していくとともに，新出土資料を含む各種資料を用いながら思想史を組み上げていく方法について指導していく。
		准教授	青山　大介	私は，日本漢学(古学派)と中国思想(観念史・諸子学)を専門に研究しています。研究テーマは大きく分けて二つあります。一つ目は，幕末から明治初期にかけて活躍した儒学者安井息軒(やすい　そっけん，1799[寛政 11]-1876[明治 9])の研究です。息軒は江戸幕府が「寛政異学の禁」を自ら破って昌平坂学問所の教授に抜擢したほどの学者であり，その門下には明治政府で活躍した陸奥宗光や井上毅といった人物がいます。彼の著作は明治になってから多く出版されましたが，まだ十分に研究されていません。彼の著作を通して「日本の近代化において古学派がどのような役割を果たしたのか」を明らかにしたいと考えています。二つ目は，中国の古代の人たちが抱いていた「聖人」や「聡明さ」のイメージを通じて，古代の人たちが「知」をどのように理解していたかを探る研究です。従来の「九流十家」(儒家・道家・法家など)という分類にとらわれず，柔軟に中国思想を捉え直すことを目指しています。また，紀元前 239 年に秦国の宰相呂不韋が作らせた『呂氏春秋』という思想書と，同時期の秦の法律文書(出土文献)を関連づけて読むことで，当時の政治と思想の関わりを再現することも試みています。
歴史文化学	日本史学	助教	殷　暁星	近世～近代日本の民衆教化及び道徳倫理生活を分析することで，日本と東アジアの民衆教化思想が関係しあう歴史の全体図を描き出す研究を行っている。具体的には，近世東アジアに共有された道徳律がいかに日本の民衆に浸透したのか，近世日本の民衆の道徳倫理の形成は東アジアの思想展開にどう位置づけられるのか，東アジアとの連関の中で形成された近世の民衆教化思想が近代以降どのように変容したのか，などの課題に取り組んでいる。
		助教	窪田　頌	専門は日本中世史。とくに 15・16 世紀(いわゆる戦国時代)の社会構造の解明を目指して研究を進めている。具体的には、地域権力(いわゆる戦国大名)の権力構造の解明や、その権力を成り立たせている社会構造の探求、その結果として生じる政治過程の復元を目標としている。フィールドとしては九州を中心とした西日本を対象としているが、日本列島全体や、中国・朝鮮・琉球も含みこんだ東アジア全体の歴史的状況との関連や影響を踏まえた議論の構築を試みている。今後は、近代社会と全く異なる中世日本社会の構造の精緻な言語化を目指すとともに、15・16 世紀西日本の政治過程の構造的な理解、東アジア・東南アジアからの物資流入の拡大と戦国争乱との関係などについても検討をすすめ、「戦国時代」を世界史的視野で理解することを目指したい。

歴史文化学	東洋史学	准教授	上田　新也	主に近世ベトナム史を研究対象としている。近世ベトナム史研究では史料アクセスの改善により，地方統治の実態，村々における土地所有，家族形態，宗教実践などの詳細な分析が可能となった一方で，従来の研究の大幅な見直しが必要となっている。このためベトナムの北部～中部の村々での現地調査により村落文書を収集しつつ，近世ベトナムにおける地方統治，親族集団，土地所有などの分析を進めている。併せて，それらを通じてベトナム近世～近代における社会変容を東アジアや東南アジア社会との連関を意識しつつ明らかにしていきたいと考えている。
		准教授	舩田　善之	モンゴル帝国時代のユーラシア中央・東部地域を研究対象としている。モンゴル帝国の拡大と統治に伴う多様な人間集団の移動と混住に対する関心から，前後の時代や隣接する諸地域も視野に入れながら，研究を進めている。とくに，多元的な社会の形成と展開，またそのような社会に対する統治制度の解明に従事してきた。中国史でいう元朝期(元代)を含め，中国本土とモンゴル高原に重点を置いている。大学院では，多様な内容・媒体・言語の史資料や現地調査の成果を活用しながら，政治・法制・社会から外交・戦争や経済・文化交流に至るまで様々なトピックに取り組みたい。
		助教	横山　雄大	中国、台湾、日本、ソ連を中心とする近現代東アジア国際関係史を研究対象としている。とくに冷戦期東アジアにおける東西両陣営による対日政治工作、冷戦下における左派ネットワークとその機能、海洋漁業・郵便のような実務問題をめぐる国際政治(いわゆるロー・ポリティクス)などに主たる関心を有している。各国・地域に独自の文脈を重視しつつも、一国史や二国間関係史の枠組みを超えた検討に挑んでみたい。
	西洋史学	教授	藤原　翔太	近代フランス史を専門領域として，フランス革命・ナポレオン時代の地方統治構造の再編過程を分析し，近世国家(社団国家)から近代国家(国民国家)への移行の実相を研究している。具体的には，革命により成立した地方行政区画(県・郡・市町村)に設置された地方議会(県会・郡会・市町村会)に注目し，革命期に外部勢力の圧力により政治的に過熱した地方議会が革命終期にかけていかに非政治化を達成したかを，憲法改正，地方行政改革，選挙制度改革，治安維持機構の再編等の観点から明らかにしようとしている。以上の研究を実現するには，フランス各地の文書館に所蔵される未刊行史料の調査と解析が不可欠である。大学院ゼミナールではそうした研究のノウハウを学びながら，新たな近代フランス像の可能性を開いていくことを目指したい。
		教授	前野　弘志 ※2	古代地中海世界史およびギリシア語碑文学・パピルス学を研究している。碑文学は石や金属の板などに刻まれた文章を対象とし，パピルス学はパピルス草から作った紙にインクで書かれた文章を対象とする。具体的には，石板に刻まれてアクロポリスやアゴラに建てられた決議碑文や彫像などに刻まれた奉納碑文，鉛の板に書かれた呪詛，パピルスに書かれた結婚契約書や労働契約書，庶民が書いた手紙，魔術のマニュアルである魔術書などを読んでいる。これらを読むことにより，古代地中海に生きた人々の国家，政治，社会，宗教，生活，心性を垣間見ることができる。碑文を読み解く作業は，スリリングで魅力的な仕事である。またレバノンの世界遺産アルバス遺跡で発見された大型墳墓の発掘研究を行っている。
日本・中国文学語学	日本文学語学	教授	下岡　友加	専門は日本近代文学，日本語文学，ポストコロニアル批評。⑴志賀直哉のテクストを中心とした生成論，並びに人称やナラトロジーに基づいた小説の方法に関する研究。⑵黄霊芝を中心としたポストコロニアル台湾の日本語小説・俳句に関する研究。複数の言語を跨ぐ作家によって編まれた新たな日本語文学の表象可能性を剔出する。⑶日本統治期台湾で刊行された官製プロパガンダ誌『台湾愛国婦人』を中心とした雑誌メディア研究。植民地の獲得とともに拡張した日本文学の市場や政治性，海を渡った編集者・記者の役割，〈読む女〉〈書く女〉に求められたジェンダー機能等を解明する。以上三領域に関連する研究課題であれば，いずれも指導可能であるが，画像も含めたテクストの精読を礎とする教育を重視している。
		教授	白井　純	日本語学，とくに日本語史を主な領域とし，キリシタン版を中心とする研究と教育を行っている。授業では文献学の基本的な技法の習得を重視するが，キリシタン版はキリスト教宣教師が西洋式の印刷技法を用いて日本で出版した辞書，文法書，宗教書などであり，(1)ラテン語を中心とする多言語環境のもとで構築された日本語の文法書と辞書，(2)ヨーロッパの原典を翻訳し改編した日本イエズス会独自の宗教書，(3)ヨーロッパ諸言語の文字より遥かに複雑な日本語の漢字と仮名を本格的に活字印刷した出版物，(4)日本語を学習し実践的に利用した外国人による最も早い日本語学習，(5)世界各地に分散するキリシタン版のフィールドワークによる探索と調査，などの幅広い視点による自発的な探究心が成長するような教育の実現を目指している。
		准教授	小川　陽子	専門は，古代中世国文学。主に，『源氏物語』をはじめとする中古中世の作り物語がどのように生み出され，現代に至るまでの各時代においてどのように読まれてきたかを研究している。特に，中世から近世における『源氏物語』注釈書の生成と展開，近世における中古中世王朝物語の書写や所有にかかわるネットワークを研究対象とする。授業では，中古中世の物語を取り上げ，写本や版本の状態から翻字・本文制定・付注を経て正確に内容を捉えた上で味読するまでの過程を学ぶこと，その過程において学生自ら問題点を発見できるようになることを目指す。
		助教	K.ダルミ	専門は，昭和時代以降の日本現代文学である。これまで主として村上春樹文学について，魔術的リアリズムをキーワードに研究を行ってきた。近年は漫画や絵本を中心に，村上春樹文学のアダプテーション作品について研究を進めている。村上春樹の作品のほか，現代女性文学にも興味を持っており，村田沙耶香や今村夏子の作品も研究対象としてきた。また，英語圏・ハンガリー語圏を中心に，海外における日本文学の受容にも深い関心を持っている。教育面では，現代文学を中心に研究指導を行っており，日本文学を幅広い視点から捉え，創造力を促す教育を心掛けている。
	中国文学語学	教授	川島　優子	中国明代の白話小説を中心として教育研究活動を行っている。明代の白話小説『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』『金瓶梅』や「三言二拍」等)は，明末の出版文化を背景に生まれ，挿図本や評点本など様々なバリエーションによって多くの愛読者を獲得した。こうした作品の成立について，テクスト内外の情報に基づいて研究を行うとともに，作品の受容についても，特に当時の評点本を中心に研究をしている。また，これらの小説は江戸時代に日本に伝来し，江戸時代から明治・大正期にかけて，様々な翻訳や二次創作が行われている。こうした日本における中国白話小説の受容についても研究と教育を進めている。

欧米文学語学・言語学	アメリカ・イギリス文学	教授	大地 真介	専門は，ウィリアム・フォークナーやコーマック・マッカーシー等のアメリカ文学である。特に現在，フォークナーの技法と人種・階級・ジェンダーの境界のゆらぎのテーマについて研究している。主に論文指導では，フォークナー，マーク・トウェイン，トニ・モリソン等のアメリカ南部の作家，ハーマン・メルヴィル，エドガー・アラン・ポー，ヘンリー・ジェームズ等の 19 世紀アメリカの作家に取り組む学生を指導してきたが，アメリカ文学であればいかなる作家についても指導する。授業においては，アメリカン・ルネサンスやモダニズムやアメリカ南部の主要な文学作品を扱い，精読とディスカッションを組み合わせた授業形態を取っている。
		教授	P. チェイニ	ロマン派，モダニズム，現代の文学を研究しています。詩，小説，エッセイ，批評，哲学などを対象としています。思想が経験，知識，芸術，人生にどのように影響するかに関心があります。観想，直観(エピファニー)，超越的・神秘的な体験の文学的表現にも関心があります。現在は，1925 年から 2025 年までの文学と哲学における，こうした主題を研究しています。ケンブリッジ大学クレア・ホールの終身会員であり，ダラム大学の哲学名誉フェローです。国際的な学術誌にも多くの論文を発表しています。著書に『コールリッジの観想哲学』(オックスフォード大学出版局，2020 年)，『コールリッジ，シェリング，他の動的観念論者における物質と生命』(Springer，2025 年，編著)，『不完全性の美学：芸術と日常生活における』(ラウトレッジ，2023 年／東京大学出版会より 2026 年に日本語版刊行予定)，『コールリッジと観想』(オックスフォード大学出版局，2017 年)があります。また，『リズムの哲学：美学，音楽，詩学』(オックスフォード大学出版局，2020 年)の共編者でもあります。
		准教授	松永 京子	アメリカやカナダにおける原爆・核エネルギーをめぐる言説あるいは文化表象を研究対象とし，帝国主義・植民地主義の歴史的文脈や環境的視座などから研究している。特に，北米先住民作家やアーティストが，原爆，ウラン鉱山，核施設，原発，核廃棄物の問題をどのように文学・映像・芸術作品にとりいれているのかを，カルチュラル・スタディーズ，ポストコロニアル理論，環境正義などの学際的アプローチから分析してきた。授業では主に現代アメリカ文学作品をとりあげ，作家や作品に関する歴史的文化的コンテクストや，人種，階級，ジェンダー，セクシュアリティ，植民地主義，環境問題など幅広いテーマについて考えることに重点を置く。また，文学作品の複雑な位相を理解するための複眼的かつ批判的な視点を養い，自らの疑問点や関心を探究する場を目指す。
		助教	松本 舞	ヘンリー・ヴォーン，エイブラハム・カウリー，リチャード・クラショーなどの 17 世紀英国の詩人たちの作品を中心にイギリス詩の研究を行っている。近年では，錬金術思想をはじめとする神秘主義思想や科学思想から初期近代の英文学の分析を試みている。教育面では，イギリス詩に加え，現代詩，アメリカ詩を対象とする研究指導を行っている。また，英米文学作品に描かれた猫を中心とした比較文化や，ジョン・ミルトンなどによって書かれた叙事詩と現代のサブカルチャーの接点，詩作品と芸術との関連なども探っている。
	英語学	教授	今林 修	後期近代英語期における英国小説の言語・文体研究を行っている。とりわけヴィクトリア朝を代表する小説家チャールズ・ディケンズが主たる研究対象であり，彼の作品に描出された「文学方言」の研究を行ってきた。最近は，ディケンズの言語・文体研究と並行して，英国 19 世紀の英語の特徴を音韻・形態・文法・統語・語彙の面から社会言語学やコーパス言語学の最新の手法を援用しながら調査している。プロジェクトとしては，故山本忠雄(前広島大学教授)の意志を継ぎ，広島大学と熊本大学の英語学講座出身のディケンズ学者と『ディケンズ・レキシコン』を編纂している。また，英文学作品の電子テクスト化を TEI に準拠して行い，その国際的な基準の確立と大規模な英文学アーカイヴ構築を目指している。
		教授	大野 英志	14 世紀後半の英国詩人ジェフリー・チョーサーの言語研究を行っている。これまで主として，非人称構文を研究対象とし，同一動詞が非人称・人称用法を持つ場合にその用法の差の意義およびその差から可能となる解釈を，語用論なども用いて調査してきた。その際，同時代の他の詩人や電子コーパスなども扱い，通時的・共時的な考察も行っている。大量電子コーパスが整備されつつあるなかで，コーパスを利用してわかることと，精読しなくてはわからないことを意識して，当時の語彙や文法項目の用法を明らかにしようと努めている。
	ドイツ文学語学	准教授	今道 晴彦	コンピュータに蓄積された言語データから言語・文体情報を収集・計量し，言語分析することを本務とするコーパス言語学(ドイツ語)を研究対象としている。(1)類義語・多義語の使い分け，(2)学術ドイツ語の選定，(3)複数のバリエーションを有する文法現象の研究をはじめ，最近は(4)作文データを元にしたドイツ語学習者の過剰／過少使用の分析や，(5)要約文の自動判定の研究なども行っている。大学院の演習では，ドイツ語の原書講読を最優先しつつ，データ処理に関する実習も行っている。また，分析で得られた知見を教材開発や各自の研究課題に応用することを目標にしながら授業を行っている。
		准教授	C. シェレター	ジャンルのような文学的テクスト類型の生成がいかに説明され得るのかという研究を行っている。その中心にあるのは、社会構造、思想史、さらには新たな形式的表現手段の導入といった文学システムの変化といった要因が、それぞれ孤立してではなく、条件の構成としての相互作用において、どのように文学作品の生成に影響を与えるのかという研究である。こうした因果関係については、彼はすでに日本の教養小説に関する比較分析において検討している。さらに、ジャンル生成を説明するための一般理論および方法論の構築を目指している。 教育においては、ドイツ語の授業で習得した能力を、授業内での口頭での議論やレポートなどを通じて、気負わず実践的に用い、発展させることのできる環境を重視している。卒業論文・修士論文・博士論文の指導においては、学術的文章作成の指導と文学理論の応用を重視している。

欧米文学語学・言語学	フランス文学語学	教授	宮川 朗子	19 世紀のフランス小説，とりわけゾラの作品を主な研究対象としてきたが，近年は，19 世紀から 20 世紀初頭の新聞と文学との関係，とくに新聞連載小説に注目し，この形式の小説と時事的な報道や読者との関係性について考察を進めている。教育においては，テクストの読解が文学研究の基礎であると考えているが，授業では，ただ読んで訳すだけでなく，読後に議論の時間を設け，さまざまな解釈の可能性を確認している。また，論文指導では，論文制作の手順と必要な作業を説明し，手順に従って作成した提出課題の添削を通して，論理的で説得力のある文章を作成する力を養うための指導を心掛けている。
		准教授	O.セカルダン	文化のハイブリッド性と移動の概念について研究している。そのため，啓蒙主義時代のフランス文学から現代のフランス語文学（とりわけアンティール諸島の文学）までの広い対象について，これらの概念を，比較文化的な見地から分析している。教育においては，言語と文化の習得によって，学生がフランス語圏において積極的な活動ができるようになるために，フランス語を習得させることに重点を置きつつも，文学の授業においては，テクストの歴史的，文化的，社会的コンテクストに同時に注意を向ける複数テーマ的なアプローチを試みている。単にテクストの読み方を学ぶのではなく，テクストと思想のつながりを探しながら，理解し，解釈できる力をつけさせることを目的としている。
		准教授	O.ロリヤール	フランス古典文学とラテン語の研究から出発したが，現在は，外国語としてのフランス語とフランス文化の教育を専門としている。外国語の運用能力を習得させるための方法論の問題が中心的な関心事であり，日本の学習者に固有の問題を克服させるのに適したフランス語教育法を模索している。具体的には，非常に逆説的ではあるが，オーラル・コミュニケーション能力の習得を最適化させる上で，翻訳という方法が果たしうる役割について研究している。 コミュニケーションの授業では，母語と学習する言語とを直接的に突き合わせるこの方法を，部分的に適用している。また，文化の授業でも，コミュニカティヴ・アプローチを基本としており，学習をより自発的なものにするよう努めている。
	言語学・言語情報学	教授	上野 貴史	言語学が科学の一学問として発達した歴史言語学から，構造言語学や普遍文法にみられる言語事象を講義・演習形式で教育を行っている。 専門分野では，①「言語形式の通時的変化」，②「非対格構造における統語現象」，③「コピュラの通言語学的研究」をテーマとして研究している。①においては，イタリア語における音韻・形態・統語変化について文学作品をコーパスとして調査している。②においては，イタリア語・英語の複合語・派生語の生成過程を研究する中で，過去分詞派生語についての指摘を行い，これを契機として，非対格構造の統語論を研究している。③においては,通言語的なコピュラの統語機能・構造を研究している。また，日本語対照言語学に関する教育と研究も行っている。
		准教授	尾園 絢一	インド・ヨーロッパ語比較言語学成立以来，今日まで発展を続けている古インドアーリヤ語(いわゆるサンスクリット)歴史文法，特に動詞形態論を専門とする。インド・ヨーロッパ語の中で中心的な位置を占める古インドアーリヤ語(特にヴェーダ語とよばれる古い言語層)，古イラン語(アヴェスタ語，古ペルシア語)，ギリシア語(特にホメーロス叙事詩の言語)を主な資料として，重複動詞語幹の形態・機能の解明を目指して研究を行っている。授業では古インドアーリヤ語をはじめとするインド・ヨーロッパ各言語間の比較．インド・ヨーロッパ祖語(共通基語)の再建などの手法を学びながら資料を分析し，インド・ヨーロッパ語歴史文法の原理の習得を目指す。
地表圏システム学	地理学	教授	後藤 秀昭	地形の発達史を紐解く中で地殻変動や活断層の変位について検討する変動地形学的研究を主に行っている。研究手法としては，空中写真や数値標高モデル(DEM)を用いたステレオ画像の判読による活断層の認定や地形の分類，現地での地形計測や地層の観察である。最近は，地理情報システム(GIS)や DEM を用いることで変動地形研究の新展開を試みている。陸上のみならず，海底の地形についても対象としており，変動地形研究者にしか読み取れない活断層の特性や地形発達について検討したいと考えている。その他にも，自然災害や地域の開発など，地形と関連した自然地理学的あるいは環境地理学的な課題についても検討したいと考えている。
		教授	友澤 和夫 ※1	(1)現代インドの空間構造の研究，(2)インド工業化の研究，(3)日本の造船業に関する経済地理学的研究，の 3 つを現在遂行している。特に(1)と(2)については，科学研究費補助金基盤研究(B)を獲得し，重点的に力を入れている。こうした研究の成果に基づいて，経済地理学や都市地理学を中心に人文地理学を幅広く教育している。指導学生は，産業でいえば工業・商業・サービス業に，地域でいえば都市や産業地域に興味を持つ者が多い。演習では学生の主体性と創造性の向上を重視した指導を行っている。博士課程リーディングプログラム(たおやかで平和な共生社会創生プログラム)の学生も受け入れている。
		准教授	後藤 拓也	これまでに行ってきた研究は，(1)アグリビジネスの地理学的研究，(2)企業の農業参入に関する地理学的研究，(3)インドのブロイラー養鶏産業に関する地理学的研究，の3つである。このうち(1)については，すでに研究成果を単著『アグリビジネスの地理学』(古今書院)として 2013 年に刊行した。また(2)と(3)については，現在もフィールドワークにもとづいた研究を継続している。これらの研究成果を活用して，農業地理学・農村地理学を中心とした人文地理学の教育ならびに論文指導を行っている。大学院の演習においては，文献購読を通じて人文地理学の研究動向を学ぶことに加え，フィールドワークによる資料収集や聞き取り調査に重点を置いた指導を心掛けている。

地表圏システム学	考古学	教授	有松　唯	古代オリエント(中近東)の考古学を専門としている。中近東は，人類史上の画期的現象が自生し，自律的に展開・発達した稀有な地域である。我々の社会がどのように成り立ったのかを考えるには当地の歴史の解明が不可欠であり，同時に，「我々はどこからきて，どこへゆくのか」という人文学の普遍的命題に向き合うにも最適なフィールドと言える。 なかでも，アッシリアやアケメネス朝といった，古代帝国の成立過程の解明を目指している。とくに，アケメネス朝ペルシャは古代オリエントを統一した初めての勢力であり，また世界帝国とも称されるが，成立過程には多くの謎が残されている。また，その過程における，鉄の実用化プロセスにも着目している。こうした人類史上の課題に，理論の構築からフィールドでの調査研究に基づく実証的アプローチまで，多様な方法で取り組んでいる。
		教授	野島　永	日本列島における古代国家形成以前の考古学的研究を行なう。弥生時代から古墳時代の鉄器文化がどのように社会を変容させていったのかをテーマとした遺物論を展開する。また，古代国家成立以前に存在した世界各地の首長制社会の考古学的研究事例から，金属文化がさまざまな社会構造に関与していたことを明らかにする。金属文化の発展を視座とした首長制社会の比較考古学的研究を推進する。さらに，弥生時代墳丘墓や古墳時代前方後円墳など墳墓遺跡の発掘調査をおこない，その発展過程を総合的に考察する。最新の調査研究技術の習得とともに，考古遺物から古代社会の実像を見出す学際的研究ができるように指導する。
		准教授	上田　直弥	専門は日本考古学。特に日本における古代国家の形成過程に葬制の面からアプローチすることを中心的な研究テーマとしている。日本では3世紀から6世紀を中心として，巨大な墳墓を数多く築くという世界的に見ても特異な現象がみられ，その背景には単なる文化的特徴にとどまらない要因が潜むと考えられる。そうした古墳の出現と展開の背景を，その中心的施設である埋葬施設の構造分析を通して追究している。また国家形成期におけるモニュメント築造の意味を国際的に比較することで，世界史的視野から古代日本を評価することにも取り組んでいる。研究・指導においては遺跡現地の調査や実物資料を活用した実証的方法を重視する。
	文化財学	准教授	伊藤　奈保子	イスラーム化以前における古代インドネシア美術史，宗教史研究を専門とする。インドネシアをはじめ，アジアにおける仏教，特に密教の展開を，鋳造像，儀礼に用いる法具等の美術史・工芸史の観点から分析，碑文・史書・経典等を補足資料として究明を行っている。大学院演習では，学生個々人の課題に即して，アジア地域における美術工芸品の扱い方，撮影技法，調書作成等，調査方法の実習を行うとともに，同例による他地域との比較，史書や経典等との照合，社会的・歴史的背景との関連性をも含めた学際的な考察が行えるよう指導する。
		准教授	中村　泰朗	専門とする分野は日本建築史であり，現在の主な研究テーマは，中近世過渡期における住宅および城郭建築(御殿や天守など)の復元的考察である。ここでは，文献史料や古絵図の調査という従来の建築史的手法に加え，発掘調査で明らかになった建築の痕跡を精査し，さらには御殿の杉戸など各地に伝存する建築部材を実測することで，今は失われた諸建築の姿を実証的に復元する。教育面に関しては，学生の興味と関心に応じて建築史に関わる様々なテーマを設定し，学生が論理的かつ多角的に考察できるよう指導する。また現地に赴いての見学や実測調査など，フィールドワークを導入した教育も積極的に行う。